

<1月> 「コロコロってするとできるねん」

- ねらい 身近な自然現象を通して不思議に感じたり試したりして、冬の自然に親しむ。
- 内容 冬の自然現象に触れて遊ぶ中で、試したり比較したりする。

環境構成 保育者の援助

①雪が降り積もった機会を逃さず十分に関わって遊ぶことができるように、時間を確保する。

②雪だるまをつくり上げる満足感を味わうことができるように、使える素材を一緒に考えたり、見える位置に置いたりしておく。

③湿った雪、サラサラの雪など、雪にも性質の違いがあることに気付けるように、さりげなく知らせる。

昨晚、①雪が降り、園庭全体に雪が3センチほど積もる。アサコは「ゆきだるまつくろう」と①歌いながら、両手で雪を集め出す。そこへコノカとマリが来て同じ歌を歌って一緒に雪を集める。雪はサラサラしていて固まりにくい。②「いっぱい集めてぎゅっとしたら固まる!」とアサコが言うと、3人で雪を集めては手の平を使って固める。するとアサコが「雪だるまってな、コロコロってするとできるねん」と言いながら、雪の上で雪玉を転がし出す。コノカが「3人でしよう!」と言うとアサコも頷き、3人で雪玉を転がす。するとマリが「芝生いっぱいついてる」と、雪玉についた芝を掃う。アサコは「芝生ついてても大丈夫」と言うが、コノカ達は「えー!嫌だ」「誰も踏んでいない所を通る?」と言う。アサコは「あっちに行こうか」と指差し、3人は足跡のない方へと転がし始める。しばらくして、坂を利用して雪玉を転がすハルヒコを見たアサコは③「あれいいやん!やってみよう?」と言う。2人も「いいね!」と答え、真似し始めた。

3人は雪玉を大きくすると、ハルヒコの雪玉と合わせて雪だるまをつくる。②金柑や枝、砂場のカップ等を集めて、目や口に見立てて雪玉に押し込むがすぐに落ちてしまう。アサコは、付けたい枝の真下に新しく雪を付けるが、すでに氷のように固まっており、くっつかない。アサコは「この雪は言うことを聞いてくれない雪だ」とつぶやく。③保育者が「こっちにこんな雪もあるよ」とサラサラの雪を見せると、誰も踏んでいないところから新しい雪を取り、枝の隙間に埋め込みだす。④手を離しても枝が落ちないことを確かめて、アサコらは「付いた」と笑う。4人はその後もサラサラの雪を埋め込みながら雪だるまに飾りをつけ続けた。



内面の読み取り

①園庭全体に積もった雪へのわくわくした気持ちが、歌を歌ったり両手を使って雪を集めたりさせた。コノカ達も同じ歌を歌いながら目的を共有して遊び始めた。

②実際に試すことで気付いたことや知っていることを友達に伝えながら遊ぶことを楽しんだ。

③雪玉を坂で転がしているハルヒコを見て、より早く大きくするために良い考えだと思い、遊びに取り入れた。

④保育者の言葉にヒントを得て気持ちをもち直し、木の枝を固定することができた。枝が付いた時の喜びが、笑顔からうかがえる。目的を達成し満足感を味わうことができた。

< 考察 >

アサコは、雪だるまづくりの途中、友達と思いが異なってしまふ。普段であれば自分の思いを通そうとするアサコが、芝のついていない雪だるまづくりを受け入れたことに驚いた。それは、園庭に積もった雪に心を動かし、同じように心弾ませながら集まった友達と雪だるまをつくるという共通の目的ができたからだろう。雪への興味から友達関係を広げ、じっくり雪に関わり試しながら遊ぶことができた。

< 幼児の学び >

- ・雪の性質への気付きと遊びへの応用
- ・友達と考えを伝え合い、よい方法を取り入れながら、力を合わせて雪だるまをつくり上げる達成感や満足感

< 小学校の先生の気付き >



この地域では、雪が積もることが少ないのですが、実際に素手で触った雪の冷たさや遊びの中で発見した雪の性質に気付いているね。

小学校では、理科の学習で「水の性質」を学習したり、社会科では、寒い地域の学習をしたりしますが、このような体験が学びのきっかけになりそうですね。

